



第135回古民家歴史部会・歴史探訪

「横浜散策18区シリーズ・第10回」

平成31年3月6日(水)

「神奈川区・歴史散策」

*集合：東横線白楽駅(改札口) 9時50分厳守同時出発

*解散：地下鉄三ツ沢上町駅

ゆるキャラ

区の花



かめ太郎



チューリップ

神奈川区は、1927年(昭和2年)10月1日、鶴見区、中区、保土ヶ谷区、磯子区とともに誕生しました。1601年(慶長6年)に神奈川宿が置かれた背景もあり、古くから陸上交通の要衝として栄え、この宿が港町であったため、陸海両面から人や物資の交流が盛んな町として繁栄しました。平成29年、神奈川区は区制90周年の記念すべき年を迎えました。(神奈川区HPより抜粋)

参考資料】★散策コース「横浜」(昭文社) ★神奈川県謎解き散歩(新人物文庫) ★横浜地図帳・街の達人(昭文社) ★横浜・歴史の街かど(横浜開港資料館) ★神奈川区役所発行図書ほか

①六角橋商店街

横浜市の三大商店街(横浜橋通商店街、洪福寺松原商店街、六角橋商店街)の一つと呼ばれ、戦前から続く市内有数の商店街である。旧綱島街道沿いに白楽駅と六角橋交差点を結ぶ約500mのメインストリートをはじめ、数多くの路地が網の目のように存在する。昭和30年代の建物が多く残っており、しばしばテレビドラマの撮影などに使用される。

②宝秀寺

日本武尊が東方征伐の折に泊まり、六角形の箸を授けた大伴久応の庵が、現在の宝秀寺です。「大伴久応之碑」の石碑と市指定名木古木のイヌツゲがあります。

③みどりの小道

④神奈川大学

現在の校名は第二次世界大戦後の学制改革による大学昇格時に決定した名称である。横浜専門学校と官立の新制大学(前身は横浜経済専門学校・横浜工業専門学校・神奈川師範学校・神奈川青年師範学校)と横浜市立の新制大学(前身は横浜市立経済専門学校)がともに「横浜大学」を名称として申請したため、3校において協議を行うこととなった。その結果、各校が譲歩し「横浜大学」の名を使用しないことを決定した。その際、官立の新制大学は「横浜国立大学」、横浜市立の新制大学は「横浜市立大学」とすることとなり、横浜専門学校は「神奈川大学」を名乗ることとなった。

⑤ガーデン下

国道1号に「ガーデン下」という交差点がある。周辺の建物も「ガーデン山〇〇」「〇〇ガーデン山」と

つくものが多い。地元商店会も「ガーデン山商店会」だ。実は、「ガーデン山」という住所は表記上存在しないが、三ツ沢下町駅付近一帯は通称として「ガーデン山」と呼ばれている。

関東大震災後、東京の築地から三ツ沢の地へ移り住んできたのが大澤幸次郎という人(物証券取引の成功で一代にして財をなした)。

大澤幸次郎氏が大正初期に購入していた三ツ沢の土地は、総面積約7万坪(約23万㎡)だったというから、横浜スタジアム約9つ分もの広さ。現在の公団住宅ガーデン山団地や市立松本中学校にかけての一帯、当時大森山と呼ばれていた丘陵と谷間のほとんどが含まれていた。現在は「三ツ沢せせらぎ緑道」として暗渠(あんきょ/ふたをされた水路)化されてしまったが、かつて滝の川に鶴亀橋という橋がかかっていた。幸次郎氏と長男の幸雄氏は、その橋を渡って左側の山頂部分に邸宅と庭園を築いたが、それに先立って東側一帯(橋からの坂道の北側の丘陵)、稲荷山と呼ばれていたところに、大規模な植物園を造った。これが「ガーデン」の由来となった「横浜ガーデン」だ。

⑥三ツ沢せせらぎ緑道

町の中の比較的幅の広い水路で水害の心配のない場所に、せせらぎを復活させ、緑道を整備したものです。

⑦豊頭寺市民の森

サクラの名所として古くから親しまれてきました。入口にある石段をゆっくり登れば、森の静かな雰囲気を感じることができます。三ツ沢公園が隣接しており、市民の森とあわせて散策を楽しめます。



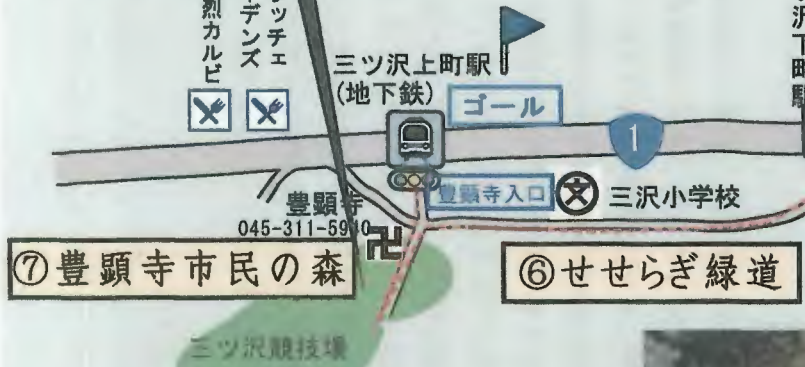
② 秀宝事本堂



④ 神奈川大学



グラッセ
ガーデンズ
熱烈カルビ



⑦ 豊頭寺市民の森

⑥ せせらぎ緑道

③ みどりの小道
② 秀宝寺

六角橋の由来
日本武尊がこの地に泊まり、
滞在中に五位木という六角形
の箸を用いたことがこの地名
の由来と伝わっている。



神奈川区
白楽～豊頭寺市民の森



① 六角橋商店街

学食
カルフル
カフェテリア
シフォン
045-481-5688

④ 神奈川大学



神奈川区の位置

横浜散策18区

本郷ふじやま公園古民家歴史部会

dimson